

さんとうゆうらんし

#5 山東遊覧志

作者：葛郛（かつぶ 生没年不詳）

刊行：安永9年（1780）

📖 解題

■ 内容

『山東遊覧志』は俳句、和歌を交えた案内記である。上下2冊76丁。安永8年の自序を持つ。上巻は江戸日本橋から川崎、程ヶ谷（保




[K291. 4/54]

土ヶ谷)、戸塚、藤沢、大磯、小田原、箱根、熱海、鎌倉の梅谷まで、下巻は、鎌倉武田屋敷より江島（江の島）、三浦、六浦金沢能見堂までについて記されている。『新編鎌倉志』と類似した記述がみられるという（『神奈川県郷土資料集成 第7輯』）。

書名については、箱根山の東という意味で「山東遊覧志」と名付けたのだろう、と今井金吾は記している（『道中記集成 第17巻』）。また『大日本近世史料（編脩地誌備用典籍解題5）』（東京大学出版会 1977）によると、後年『江島鎌倉案内記』と改題して販売されたという。

■ 作者

作者は葛郛。序文には東武下谷隠士、葛郛とある。国文学研究資料館の「日本古籍総合目録データベース」によると、羅扇宇（らせんう）、羅扇宇葛郛（らせんうかつぶ）とも称し、他の著作としては『俳諧遊覧志』（安永7年自序）がある。

 本文を読む

< 翻刻 >

「山東遊覧志」(『神奈川県郷土資料集成 第7輯 相模国紀行文集；続』神奈川県図書館協会 1972) [K08/1/7] [213. 7/19/7]

※巻頭「江ノ嶋鎌倉金沢之図」は未収録。同序文は文末に掲載。

「山東遊覧志」(『横浜市釜利谷開発地区文化財研究調査報告書 歴史・民俗編』横浜市文化財研究調査会 1976) [K06. 17/1]


※六浦金沢能見堂の部分のみ収録

「山東遊覧志」(『鎌倉市史 続編 第1巻 近世近代 紀行地誌編』吉川弘文館 1985) [K21. 4/4-2/1] ※鎌倉の部分のみ収録 図版等は未収録

< 影印 >

「山東遊覧志」(『道中記集成 第17巻』今井金吾監修 大空社 1996)

※上巻のみ収録 当館未所蔵

 参考文献

「山東遊覧志」(『国書解題〔上巻〕』佐村八郎著 臨川書店 1971) [K02/116/1]

「江島鎌倉案内記」(『大日本近世史料 (編脩地誌備用典籍解題5)』東京大学史料編纂所編 東京大学出版会 1977) [210. 08/15/11-5]

今井金吾「解題 山東遊覧志」(『道中記集成』第17巻 今井金吾監修 大空社 1996) ※当館未所蔵